

概要版

みどりのわ ささえ愛プラン

第2期 緑区地域福祉保健計画

誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして

一人ひとりが主役・
共に支えあう
つながりのある
まちづくり

「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区をめざして、地域の福祉保健を推進するための目標や課題を明らかにし、課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働で取り組む計画です。

地域の多くの皆さまがかかわって策定された地区別計画と、区役所、区社協、地域ケアプラザが地域と協働し取り組む区計画とで構成された、第2期計画（平成23～27年度）がスタートします。

目次

第1章 計画の概要

1

第2章 地区別計画

3

●東本郷地区	4
●鴨居地区	6
●竹山地区	7
●白山地区	8
●新治中部地区	10
●三保地区	11
●山下地区	12
●新治西部地区	13
●十日市場団地地区	14
●霧が丘地区	15
●長津田地区	16

第3章 区計画

18

●基本目標1	20
●基本目標2	22
●基本目標3	24
●基本目標4	26
●基本目標5	28

第4章 計画を推進するために

30

★地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。

横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画(=「市計画」)と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画(=「区計画」)があります。また、地域福祉の推進を目指し、地域住民及び福祉保健等の関係団体や事業者等が主体的に地域で進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する**地域福祉活動計画**とがあります。

それぞれの計画は、ともに地域の福祉を推進するための計画であり、相互に補完し、連携や役割分担を行っていくものです。そのため、地域にわかりやすい計画となるように策定のプロセスを共有し、整合性のとれた1つの計画として一体的に策定しています。それにより、行政や住民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所などの地域にかかわる方たちにとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となることを目指しています。

横浜市では、「区計画」を進めるために必要な、計画の基本理念や方向性の提示など、市として行なうべき支援的事項を盛り込んだ「第1期横浜市地域福祉計画」を平成16年度に策定しました。

緑区は「市計画」を受け、「みどりのわ・ささえ愛プラン」を平成18年1月に策定しました。

★第1期計画の基本理念と基本目標

基本理念

「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～

基本目標
1

地域での「つながり」を大切にすまちづくり

キーワード…つながり

基本目標
2

「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり

キーワード…人材・担い手

基本目標
3

みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり

キーワード…機会・場

基本目標
4

必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

キーワード…情報

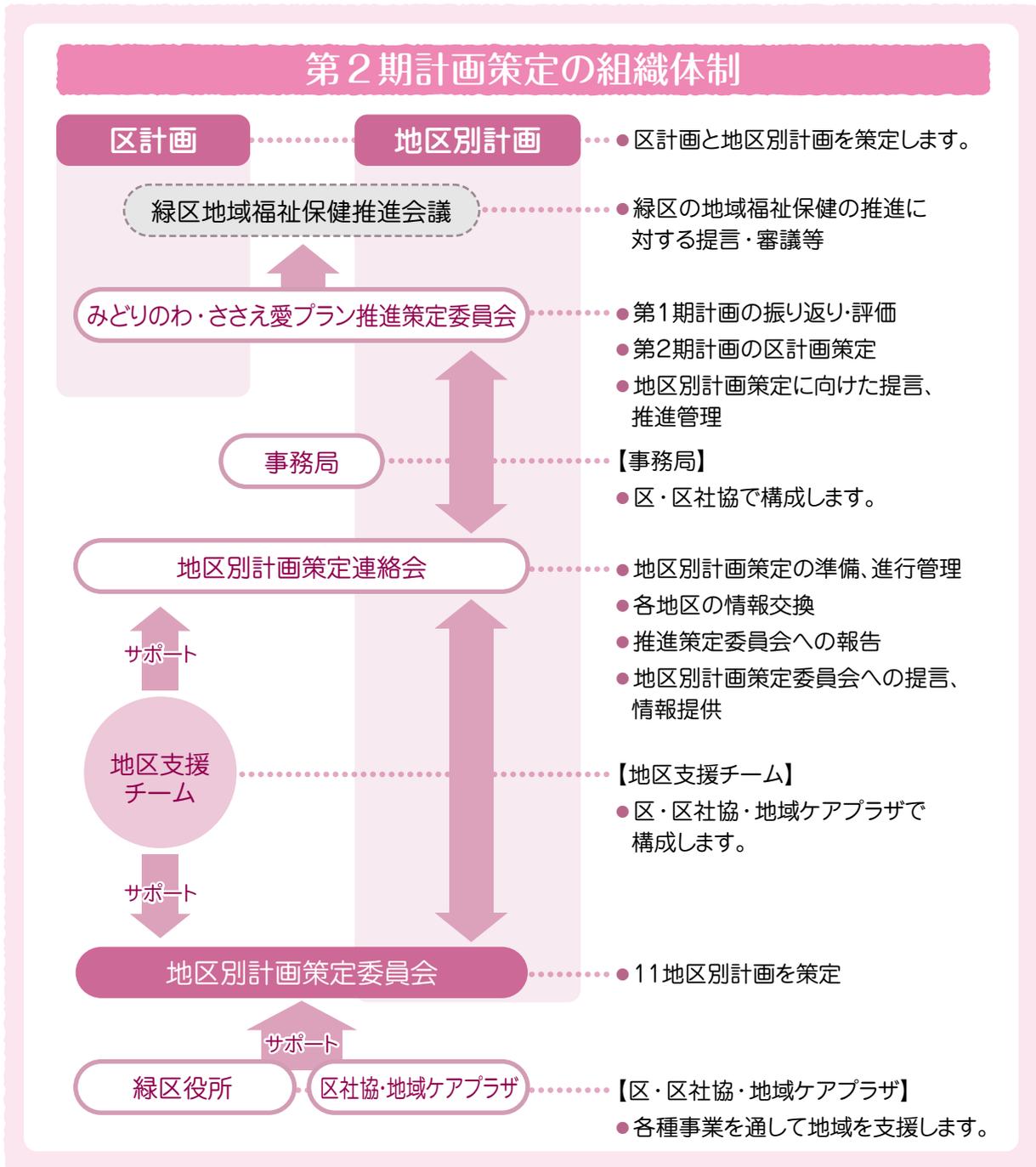
基本目標
5

「安心・安全・健康」のまちづくり

キーワード…安心・安全・健康

★第1期計画の振り返り

- ① 「地域での取組概況」の発行による取組事例の把握(平成18～21年度)
- ② 区内の福祉保健活動団体を対象とした団体アンケート調査を実施(平成20年度)
- ③ 区民3,000人を対象とした区民アンケート調査を実施(平成21年度)
- ④ 地区別計画策定委員会での地域での進捗状況の把握(平成21～22年度)
- ⑤ 「緑区福祉保健センター事業概要」の発行(毎年)



★「地区別計画」と「区計画」.....

平成22年1月から10月にかけて、区内の11連合自治会・地区社協単位で「地区別計画策定委員会」を、延べ32回開催し、各地区の特徴を活かした緑区で初めてとなる「地区別計画」を策定しました。委員会を構成したのは、各地区の自治会や地区社協の関係者をはじめ、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者等、延べ450人の方々です。

「地区別計画」は、平成23年度からの5か年間に行う、それぞれの地区の特徴をふまえた各種の目標と、地域課題の解決のための具体的な取組とをまとめています。

第2期における「区計画」では、地区を超えた区域で取り組む目標として、第1期計画で定めた**5つの基本目標を継承**し、新たに緑区の「**目指す姿**」を設定しました。

また、これらの「目指す姿」を実現するための「**キーワード**」を抽出し、地域や区役所、区社協及び地域ケアプラザが目標実現に向けて行う各種事業・取組に対する方向性を提示しています。

区域での地域課題の解決に向け、区役所、区社協及び地域ケアプラザは地域と共に、さまざまな取組を行います。

★地区別計画策定委員会の開催

地区別計画の策定等を中心となって進める「推進母体」としての役割をもった「地区別計画策定委員会」を、区内11 連合自治会・地区社協を単位とする地区で、各連合自治会を中心に順次立ち上げました。委員会は自治会や地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などの方々に構成されました。

各地区においては、平成22年1月から10月にかけて、それぞれ3回程度、委員会を開催し、地域における各種の取組の現状や課題について話し合い、地域課題の解決のための具体的な取組を検討しました。

より多くの地域の皆さまに、委員会で話し合われた内容をご覧いただくため、「地区別計画策定委員会通信」を毎回発行し、連合自治会のご協力のもと、地区内での班回覧を行ったほか、地区懇談会等での配布、緑区ホームページへの掲載を随時行いました。

★地区支援チームの活動

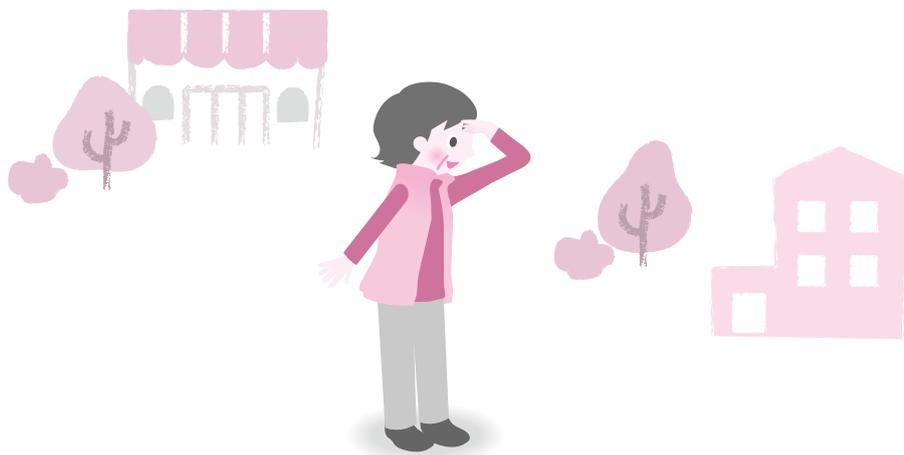
地区別計画策定委員会の設立や委員会開催の準備、地域に関する情報交換や資料作成、地区の福祉保健に関する課題の抽出や、課題解決に向けた分析・検討など、委員会への支援を行うため、区役所の運営責任職、保健師や社会福祉職、区社協職員、地域ケアプラザの所長、地域活動交流事業コーディネーター、地域包括支援センター職員(社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等)で構成される「地区支援チーム」を地区毎に立ち上げました。

「地区支援チーム」は地区別計画策定に向けた上記の内容について、地域の皆様と協働して作業を行ったほか、計画策定を通じて地域の皆さまとの連携をより深め、情報交換や課題の共有など、計画推進の土台を構築しました。

★地区別計画策定連絡会の開催

地区別計画策定委員会の連絡担当者、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「地区別計画策定連絡会」を計4回開催しました。

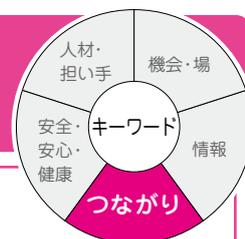
地区別計画策定に向けた委員会の開催主旨や、今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換などを行いました。



東本郷地区 地区別計画



地域の人達がつながり、支え合い、 一緒につどい楽しみを共有できるまち



【現状と課題】

- 世代間の交流が少なくなっている
- 地域の活動に積極的に参加する人と全く参加しない人の二極化が進んでいる
- 障がい児・者が参加できる活動が少ない など

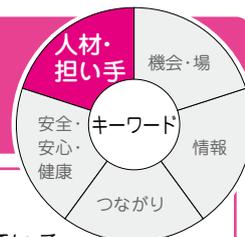
【具体的な取組】 <参加・交流の機会、居場所づくり>

- 各団体のバス旅行の継続・促進(各団体)
- 食事会懇親会の継続・促進(各団体)
- 高齢者の趣味の集まり・交流の場の常設(各団体)
- 30代、40代の方に参加いただける場づくり(各団体)
- 地域のお祭り継続・促進、芸能祭りの実施(連合自治会、地区社協)
- 大人の昔遊びを通じた子どもとの交流(連合自治会、地区社協、ケアプラザ)
- 老若男女が健康・趣味・スポーツをきっかけに参加できるまち(自治会、老人クラブ)
- 学齢期の子どもが集えるオープンルームの設置(自治会、ケアプラザ)
- 自治会と子ども会の共同イベントの実施(自治会)
- 障がい者やその家族が思いを発信しやすい仕掛けづくり(地区社協)
- 一人暮らしの方の緊急時の連絡方法の確立(民生・児童委員)
- 地場野菜の直販売りの常設と配達の見直し(継続検討)

【具体的な取組】 <声掛け・挨拶運動>

- 防犯パトロールの各地域での拡大(自治会)
- 児童虐待に対する関心の醸成(区)
- 挨拶運動の推進(地域全体)
- 犬の散歩と学童見守りの工夫(地域全体)

色々な世代の人が地域活動や ボランティアに参加しているまち



【現状と課題】

- 新規ボランティアの確保が難しい
- ボランティアに参加する世代が限られている
- 自主活動サークルの減少が多く、新規の立ち上げが難しい など

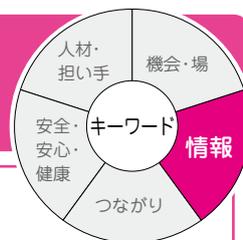
【具体的な取組】 <新たな担い手の発掘育成>

- 公園などでの出張公開講座(ケアプラザ)
- 次の世代の人材育成(自治会)
- ボランティアの有償化(地区社協、ボランティア団体)
- 障がい者に対するボランティアの育成(地区社協、ケアプラザ)
- 地域の子育ての支援者の養成(地区社協、ケアプラザ)

【具体的な取組】 <若い世代の地域参加の促進>

- 小学生・中学生・高校生のボランティア参加の仕組みづくりの検討(自治会、地区社協、ケアプラザ、各ボランティア団体、学校)
- 若い人がボランティアに参加できる体制づくり(自治会、地区社協、ケアプラザ、各ボランティア団体)

必要な人に適切な情報が届けられるまち



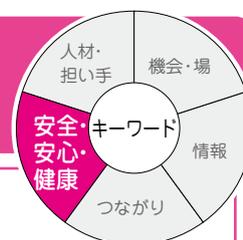
【現状と課題】

- 地域のイベント等の周知方法に工夫が必要
- 他の自治会の取組について更なる情報共有が必要
- 必要な情報が早く入手できるようになるといい など

【具体的な取組】 <情報共有>

- 各自治会間の情報交換の実施(連合自治会)
- 口コミ、広報紙など複数媒体での周知(地域全体)
- 子育ての情報提供(民生・児童委員)
- 防犯情報の回覧・掲示等の実施(自治会)
- 民生・児童委員と友愛活動推進員、保健活動推進員の交流(民生・児童委員、友愛活動推進員、保健活動推進員)

身近な所で健康づくりができ、いつまでも健康に過ごすことができるまち



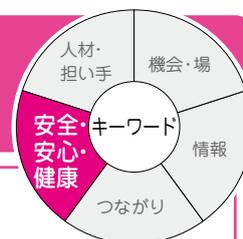
【現状と課題】

- 健康づくりの指導者が不足している
- 気軽に健康相談できる場がほしい など

【具体的な取組】 <町ぐるみの健康づくり>

- 自治会館を活用した様々な活動の推進(自治会)
- 公園でのラジオ体操、太極拳等の実施(自治会)
- 健康指導等のビデオ貸し出し(ケアプラザ)
- 健康づくりのリーダーの育成(体育指導委員、青少年指導員、保健活動推進員)
- 町ぐるみ健康づくり教室の実施(町ぐるみ健康づくり委員会)
- ケアプラザを拠点とした健康チェックの実施(保健活動推進員)

地域全体で防犯・防災に向け取り組み、安全・安心に暮らせるまち



【現状と課題】

- 防災活動の自主参加が不足している
- 地域ごとに防災体制の取組状況に差がある など

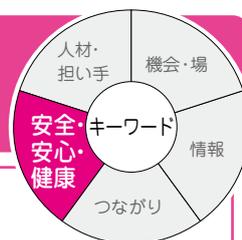
【具体的な取組】 <緊急時に備えた取組>

- 全自治会での防災支えあいカードの取組実施(自治会)
- 家庭用防災用具の一括購入(自治会)
- 防災リーダーの育成(自治会)
- 防災マップ、安全マップ作成の検討(継続検討)
- 向こう三軒両隣の支援の輪の醸成(各家庭)
- 門灯の23時頃までの点灯(各家庭)
- 防犯カメラの設置(各家庭)
- 家具の転倒防止対策の実施(各家庭)

鴨居地区 地区別計画



「『安全・安心・健康』のまちづくり」のために



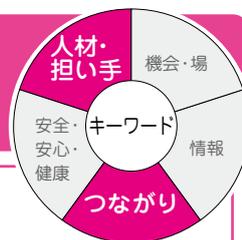
【目指す方向】

防災ささえあいカードの有効な活用方法については、各自治会などで様々な検討がされているところです。これらを更に充実させることを目指します。

【具体的な取組】

- 防災ささえあいカードの活用方法について、引き続き、連合自治会、地区民児協、地区社協、地域防災拠点等で検討したい。(個人情報に配慮した一覧表の作成等)
- 鴨居地区の地域防災拠点3か所が連携し、活用方法について検討します。
- 災害時に「援護が出来る人」の情報を収集することで、誰もが手を差し伸べる環境を作りたい。

地域での『つながり』を大切にし、地域における後継者を育成するために



【目指す方向】

既に地域の交流や情報の発信の取組が活発に行われているところです。今後は取組を継続的に進めることを目指し、誰もが参加できるイベントなどを通じて地域における担い手、後継者の育成を目指します。

【具体的な取組】

- 鴨居の魅力について、パネル展示や鴨居再発見ウォークラリーをするなどして地域に情報発信していきたい。
- 自治会加入の促進について、区と自治会で工夫を重ねていきたい。
- あいさつ運動やいきいきサロンなどの活動を通じて、地域でのつながりを作りたい。
- イベント等を企画・運営できる若い人材を、各団体で育成していきます。
- 各単位自治会がそれぞれの活動を出し合って、情報交換し良い取組を共有したい。
- 鴨居福祉まつり、わくわくキャンプ、鴨居盆踊りなどの活動を若い人と一緒に行うことで、担い手・後継者を育成したい。

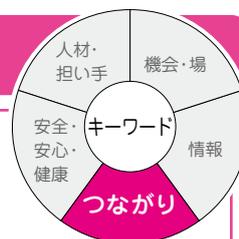
竹山地区 地区別計画



ボランティア参加等の仕組みを整えます

【今、竹山では…】

平成21年から始動している「竹山ボランティアセンター」をはじめ、活発に活動が行われています。これらの活動をより多くの人に紹介し、ボランティア活動への新たな参加を呼びかけていきます。



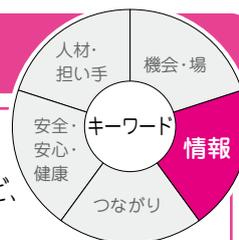
【具体的な取組】

- 各種広報などを利用して参加を呼びかけ、シリーズ企画など、定期的に情報提供していきます。
- ボランティア活動のお役立ち情報を伝えていきます。
- 自治会に加入するメリットをチラシ等で伝えていきます。
- 企画に気軽に参加できる仕組みを検討し、広く参加を呼びかけていきます。
- 美化活動など、近隣の清掃活動や行事を利用したつながりづくりを続けていきます。

知りたい情報を知らせる工夫に取り組みます

【今、竹山では…】

「竹山広報」をはじめ、自治会ごとの広報誌や40周年記念誌の発行など、さまざまな情報提供を行っています。さらにわかりやすく、情報を必要とする方に届ける工夫に取り組みます。



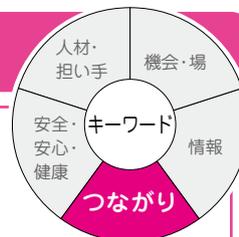
【具体的な取組】

- 各種広報などを利用して参加の呼びかけを続けます。
- 活動の事例をまとめて、いつでも情報提供出来るようにします。
- 情報交換する機会をつくり、我が町PR、竹山地区の良さを伝えていきます。
- 年間スケジュールや活動内容、メンバー募集等、活動の一覧表をつくります。
- 防災ささえあいカードなどの取組を通じて、データベースを作成し、必要な時にいつでも情報が取り出せるようにします。

世代間・活動団体間の交流を進めます

【今、竹山では…】

少子高齢化の傾向は竹山も同じですが、若い世代も少しずつ増えてきています。さまざまな行事が行われる一方で参加者が固定化する傾向が見られます。



【具体的な取組】

- 美化活動などを利用した棟ごとの交流など身近なところから交流をはかります。
- 育児中の親が参加しやすい企画、親子が参加しやすいプログラムづくりに取り組みます。
- 青少年指導員・体育指導員の協力を得ながら、多くの人が集まる楽しい企画を考えます。
- 実行委員会制の導入をさらに進めて、若い世代の参加を促します。

白山地区 地区別計画



白山の目指す地域の姿

～発展性・持続性のある「ささえあい」による「安全・安心なまちづくり」～

すべての人が生涯にわたって、豊かで安全・安心で快適に暮らせる白山。共にふれあい、学びあい、ささえあいのある白山を実現したいと考えています。

そのためには、皆さん一人ひとりが、困ったときには相談でき、協力できることは進んで行なう「おたがいさま」の関係。「つながり」や「絆」の強い白山にしていく必要があります。

よりすばらしい白山の実現のために、皆さんのご理解とご賛同をいただき、自助・公助・共助の考えをもとに「ささえあい」による「安全・安心なまち」を育みましょう。

安全・安心なまち

ふれあい

おたがいさま

つながり

きつき

協力

ささえあい

きずな

地域への
愛着

あいさつ運動

美化活動

地域防犯

おたがいさまカード

防災ささえあいカード

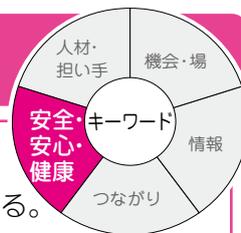
地域防災

おたがいさま相談室

配食・給食サービス

さまざまな福祉・保健活動

「おたがいさまカード」「ささえあいカード」の充実・活用



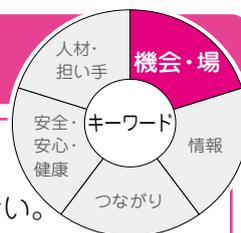
【委員会で出された意見】

- 「おたがいさまカード」「ささえあいカード」の認知度が低い自治会がある。
- 「おたがいさまカード」の取組状況が、自治会で大きく異なる。

【具体的な取組(やりたいこと・できたらよいこと)】

- 「おたがいさまカード」「ささえあいカード」の活用が進んでいる自治会の状況を共有し、参考にしあうしくみをつくる。
- 「ささえあいカード」登録者も避難訓練に参加できるような仕組みにしたい。
- 「おたがいさまカード」の完成度を高める。

利用しやすい・参加しやすい仕組み



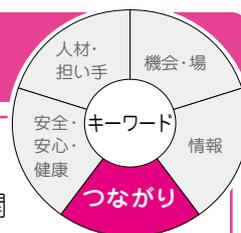
【委員会で出された意見】

- 活動の中心になってくれる方や、ボランティアをしてくださる方が少ない。
- どのように参加したらよいか分からない方や遠慮深い方が多い。

【具体的な取組(やりたいこと・できたらよいこと)】

- ボランティアの楽しみや、子どもが見習いたくなるような活動の広報を活発にし、協力してくださる方を増やす。
- 目に見える活動・幅広い広報手段・関連情報を流すなど認知度を高める。
- ボランティアをとりまとめる「場」と「人材」が必要。
- 「おたがいさま相談室」(ボランティア相談室)を開設し、拡充していく。

地域でのふれあい・交流



【委員会で出された意見】

- 問題を考える機会が、ご近所の方と地域のことを話し合うきっかけや関係づくりにもなる。
- 引越の多いマンションでは近隣にどなたが住んでいるのかさえ知らない場合もあり、問題が起こったときに誰に相談すべきかわからないという声を聞く
- ユニフォームを着てあいさつすると子どもたちは答えてくれるが、普段着のときはげんな顔をされてしまう。

【具体的な取組(やりたいこと・できたらよいこと)】

- 「おたがいさまカード」登録者が顔を覚えあってふれあえる「場」をつくる。
- 防犯パトロールや声掛け・あいさつ運動への参加を、子どもの親御さんや高齢者食事会「いちえ会」参加者にも呼びかけ、つながりを広げる。

新治中部地区 地区別計画



防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい



【課題】

- 災害時など困ったときに、手助けをしてくれる人がいて欲しい。
- 安全・安心に関心を持つ人が増えてきたので、その関心を活動につなげたい。
- 行方不明者が出たときに、地域で情報を共有できるようにしたい。

【5年間で取組んでいきたい事】

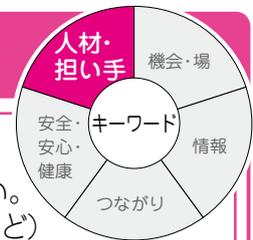
<実施主体> 地域防災拠点運営委員会

- 防災に関して、今後の地域の担い手となり得る中学生の『力』を活かすため、学校と連携していく。
 - 中学生と『地域の防災』について、意見交換会を実施する。
 - 防災訓練の平日合同(地域と学校)実施について検討する。
 - 4 地域防災拠点の防災訓練を同一日に実施するよう検討する。
- 毎年意見交換会を開催することで、次の計画を一緒に立てることを目指す。
- 子どもたちの防災の意識を高めるように学校へ提案していく。

<実施主体> 連合自治会を中心に地域全体で取組む

- 行方不明者が出たときに、地域で情報を共有できるように、関係者で集まって検討する。

次世代につながるまちにしたい



【課題】

- 地域活動の担い手がない。団塊の世代に地域の担い手になってもらいたい。
- 次の世代の人材育成について考える必要がある。(小学生や中学生の親世代など)
- 団塊世代の地域デビューを手助けしたい。

【5年間で取組んでいきたい事】

<実施主体> 地域全体で取組

- 団塊の世代等、幅広い世代に働きかけるには
 - 顔見知りになって声をかけ、心のつながりをつくる。
 - 運動会など地域のイベントを通じて仲間作りをしていく。
 - 防犯パトロール等ふれあう機会をつくり、関係づくりを進める。
 - 気楽に、普段着でできる自治会活動とし、参加しやすくする。
 - 地域のボランティア活動に中学生に継続的に参加してもらう。
 - 小学生に福祉体験の情報を提供する。
- 定期清掃に参加する人が増えている。定期清掃を広めることで、つながりができ、安否確認もできるようになる。
- 自治会相互の情報を共有することで、自治会活動の協力を継続する。

みんなで力を合わせて 次世代につながる地域づくりを！

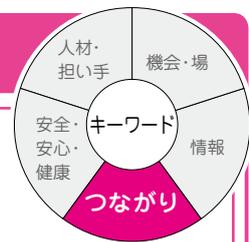
三保地区 地区別計画



地域でのつながりを大切にしたい

【現状の課題】

- 多くの団体がさまざまな活動を行っているが、参加者がその団体内に限られており、多層・多世代の個人や団体が参加できるようにしたい。
- 1歳までの子育て支援メニューを、拡大して多くの親子の参加機会を増やしたい。



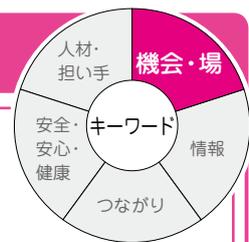
【5年間の具体的取組】

- 2大イベントの「健民祭」・「ウォークラリー」を中心につなぐりを広めたい。
- 三保小学校での「ふれあい給食」・「昔遊び」を継続・発展させたい。
- ねんじゅ坂プレイパークの利用を子どもや母親以外に高齢者・小学生等にも広めたい。
- 乳幼児の年齢や人数にとらわれず参加できる場を拡大したい。

落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい

【現状の課題】

地域内に自由に使える活動拠点がほとんどなく、地区センターまで出かける等の苦勞があり、活動の制約になっている。地域内に利用度の高い活動拠点を確保したい。



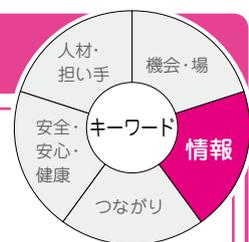
【5年間の具体的取組】

- 三保小学校・ねんじゅ坂プレイパークの利用拡大を働きかけたい。
- 各自治会や福祉施設のスペース・時間帯を提供してもらえよう働きかけたい。
- 公設施設の実現に努力するとともに、民間の空いている施設を利用できるよう、新規の施設を開拓したい。
- 高齢者や障がい者の地域活動への参加が一層活発化する交通手段を確保したい。

イベント情報等を地域で共有したい

【現状の課題】

個々の自治会や団体内の情報は行き渡っているが、その団体等に止まらず、地域全体に提供することで参加者を増やしたい。



【5年間の具体的取組】

- 自治会等の掲示板を最大限活用するほか、他の施設等にも掲示します。
- 回覧(板)ルールを周知して円滑な情報伝達を促進します。
- インターネットを利用した情報提供の方法について模索します。
- 団体間の連絡調整の場をつくりたい。

山下地区 地区別計画



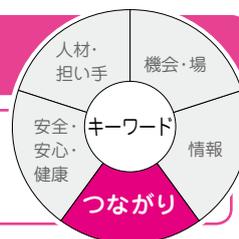
地域での「つながり」を大切にするまちづくり

【取り組んでいきたいこと】

あいさつに始まる声かけを、自分から周囲へ広げていきたい

【具体的な取組】

- 回覧板はチャイムを押しての手渡し、行事のお知らせはチラシより直接会って伝える、スポーツ行事を通じた交流を広げるなど、あいさつで顔見知りになる機会を増やすこと
- 「自治会の枠を超えたつながり」をつくるため、民生委員等の各種団体が接着剤の役割（地区情報の共有化）をしていくこと。自治会と各種団体はオリンピックの五輪の輪！



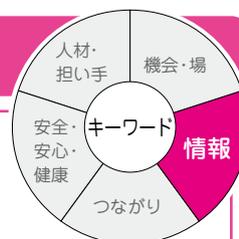
必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

【取り組んでいきたいこと】

民生委員や保健活動推進員、老人クラブなどによる、訪問事業等を通じた、高齢者や子育て中の親等に対する地域行事等の情報提供、参加の声かけを行いたい

【具体的な取組】

- 緊急時医療情報キット配布等の訪問時には、併せて興味のある情報や他の団体が行う行事等の情報を伝えること。
- 連自治会が中心となって、自治会や各種団体の活動をつなげる会議を開催し、地区の情報を共有化すること。また、ひとり暮らし高齢者等の情報を基に要援護者マップ等を作成し活用すること。



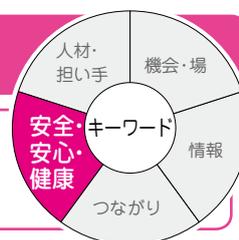
「防犯・防災」で安心・安全なまちづくり

【取り組んでいきたいこと】

防災ささえあいカードの有効な活用方法を検討したい

【具体的な取組】

- 老人会の入会勧奨等の訪問時に、防災ささえあいカードに記入してもらう等、情報収集に努めるとともに、自治会や民生委員が中心となり、情報の更新を計画的に行うこと。
- 高齢者だけでなく、障がいのある人や認知症の人、子育て中の人等、支援が必要な人の情報も収集し、安心して住める地域づくりを進めること。



みんなの力で山下地区をもっともっと素敵な街にいきましょう!!

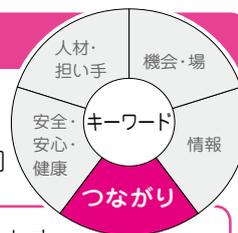
新治西部地区 地区別計画



地域の中での孤立化をなくしみんなの顔の見える環境を目指します

【すでに取り組んでいる事】(一部)

- 高齢者によるカラオケ大会
- 敬老の日「会食・慰労会」の開催
- 小学生と住民の田植えを通じた交流
- 中学生ボランティアの夏祭り参加



- ### 【現状と課題】
- 高齢者や子育て中の方々が、参加しやすい機会が求められています。
 - ひとり暮らし高齢者の孤立化が懸念されています。

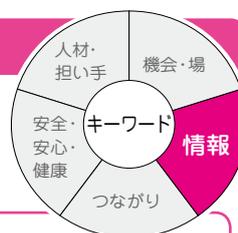
- ### 【目標とする姿】
- 今地域で行われている様々な活動がこれからもしっかりと続いているとともに、地域の皆さんの行事への参加が増え、つながりが深まっている。

【具体的な取組】

- 子育て中の家庭に向けて、地域が取り組んでいる自治会行事や「こんにちは赤ちゃん訪問事業」、「こども会」等の活動を通じて、様々な地域活動を案内し参加を促していきます。
- 自治会のお祝い金対象者把握等を目的とした調査を継続し、地域で見守りを必要とする人達の情報源にしていきます。
- 介護の問題など行政への情報提供が必要な時は、地域で包括支援センター等へも情報を提供し、必要なサービスを利用できるような関係を作っていきます。
- 日中独居も含め、一人暮らしの高齢者を隣近所で見守ります。
- 地域で行われている行事等はしっかりと継続し、「つながり」を強化します。

地域情報をより多くの人に届けるため自治会加入を促進します

- ### 【現状と課題】
- 自治会に加入していない人には、地域で行われている行事や活動等の情報が十分届けられていません。自治会への加入、活動への参加率を上げることで、より多くの皆さんに、地域情報を届けられるようになります。



【すでに取り組んでいる事】(一部)

- 小学校入学お祝い金、敬老お祝い金
- 日帰りバス旅行
- 新治市民の森ウォークラリー
- 健民祭、夏祭
- 地域防災拠点訓練

- ### 【目標とする姿】
- 自治会への加入、活動への参加率が上がって、多くの皆さんに、地域情報が届けられ、地域活動が活発になっている。

【具体的な取組】

- 自治会の活動案内や加入届を、地域ケアプラザ、老人福祉センター、図書館等公共の場所に設置し、未加入の方々の目に届くようにします。
- ケアプラザ新聞で地域の活動を伝えます。
- 自治会加入方法の周知、活動案内に申込み先明記、申し込み用ポストの設置等、加入しやすい方法を考えていきます。
- 自治会未加入者の多いアパート・マンションなどにも、自治会活動の年間予定表の配布をします。
- 自治会へ入りやすい基盤づくりとして、高齢者の役員免除など自治会の規約の見直しを検討します。

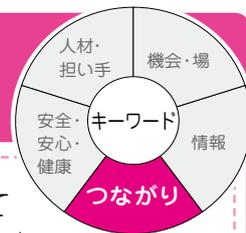
新治西部地区は

3つの自治会で構成されていますが、一戸建て住宅が多い新治、後谷地区と、商業施設や集合住宅が多い十日市場地区という違いに加えて、後谷では高齢化率が高いなどの地域特性があります。各地区ごとに課題は異なるかもしれませんが、自治会活動などをつうじて住民間の結びつきを強化し、新治西部地区全体がより住みやすいまちになるよう、取組を続けていきます。

十日市場団地 地区別計画



十日市場団地が団結して、地域の「つながり」を作っていこう



十日市場団地地区は、以前に比べ高齢化がすすみ、単身世帯も多くなっています。残念ながら、孤独死も年を追うごとに多く耳にするようになりました。

一方で、子育て世代の転入も多く、地域につながりのない養育者が孤立した子育てをしているおそれもあります。

十日市場団地地区においてもすでにいろいろな取組をしていますが、災害などいざというときでもすぐにお互いが助け合えるような、顔の見える関係＝「つながり」を日ごろからつくっていくことが大切です。

つながりをつくることの大切さを共有しよう

【具体的な取組(例)】

- 日ごろからあいさつをし合う
- 自治会活動をはじめ、老人会や子ども会など、地域活動に参加しやすくするよう工夫
- 清掃活動に誘うことでつながりのきっかけに
- 玄関ポストがいっぱいになっていないか様子を見る
- 子どもたちと高齢者など、多くの世代が交流することで、地域の活動を活性化
- 中学生ボランティアの活動の場を広げる
- 地域ケアプラザや地域子育て支援拠点いっぽなど、地域の施設を利用する
- 個人情報保護も留意しながら、できる限り情報を把握できるよう、自治会でのルール作りを検討

顔の見える関係＝「つながり」づくり

【期待できる効果】

- 災害時などにお互いの安否確認や助け合いがしやすくなる
- 孤独死を防ぐことができる
- 子育てを地域で支えることができる

・・・など

今後の十日市場団地での取組の中で話し合い、さらに具体化していきましょう

このためにも…

いつでも
支えあえる
十日市場団地に！

霧が丘地区 地区別計画



現在の課題

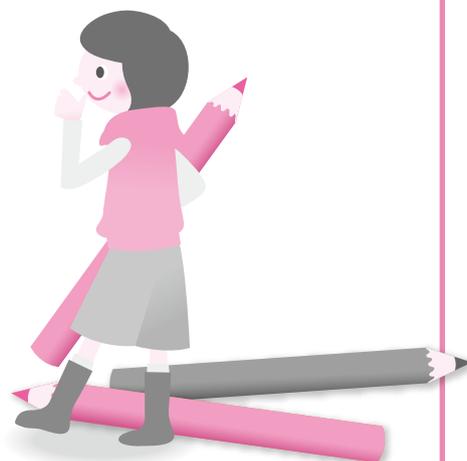
- 現在行われている、さまざまな活動や取組を継続及び発展させていくことが課題。
- 現在の取組について、必要に応じて再構築を行い、発展させることを中心にしながら、可能な範囲で新たな活動・取組も行っていく。
- 活動について、地域の方々に知っていただき、参加者や担い手の増加につなげることが課題。ボランティア活動の継続のためにも、活動を知ってもらうための工夫が必要。
- 「みどりのわ・ささえ愛プラン」の周知が課題。取り組んできたことが、プランと関係していることも知られていないので、プランや方針の中で行われている活動・取組について、きちんと周知する。



- 現在の活動・取組の継続及び発展が、今後の活動の中心となる課題。
- 活動の担い手・受け手の双方を増やしていくことも課題のひとつ。
- 地域の方々に活動・取組を周知・浸透させるための情報発信も課題。

今後の取組

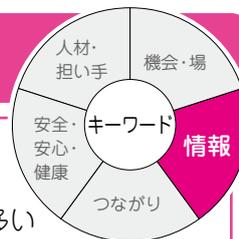
- 現在行われている取組を継続し、必要に応じて見直しを含めた再構築を行い、よりよいものに発展させていく。
- 広報「霧が丘」、「防犯・防災・環境ニュース」の発行等による情報発信を行い、地域の方々に霧が丘で行われている活動について周知するとともに、参加者や担い手の増加につなげていく。
- 「みどりのわ・ささえ愛プラン」の周知を行い、プランと霧が丘の取組の関係について、情報を発信していく。



長津田地区 地区別計画



自治会の活動をわかりやすく伝えます



【現状の課題】

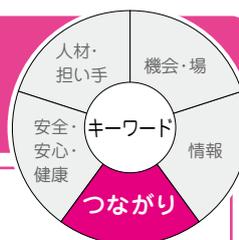
- 自治会のことは、広報回覧物や総会報告書などで伝えているが知らない人も多い
- 策定委員会に参加していない自治会員には地域課題や今後の取組みが伝わらない



【具体的な取組】

- 回覧などの印刷物を、見やすく分かりやすくするための工夫をしていきます。
- 自治会清掃などの活動に参加してもらい、自治会活動を知ってもらいます。
- 自治連合会では、各自治会の取組みを報告し合い、良い活動事例を共有します。

あいさつできる地域づくりを進めていきます



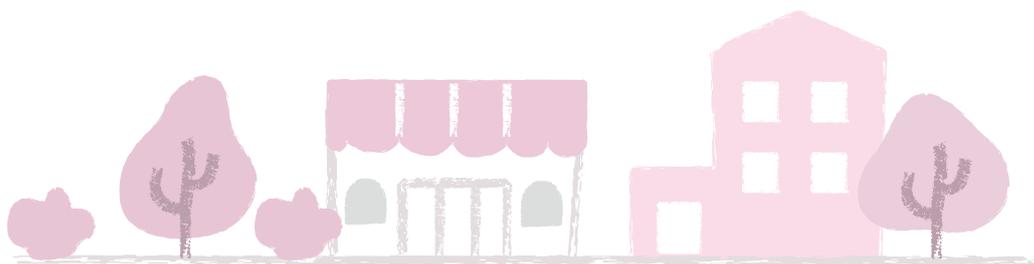
【現状の課題】

- 大人になるにつれあいさつをしなくなり、隣近所との付き合いが希薄になる
- 災害時の協力体制が取れるか心配

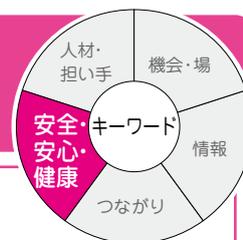


【具体的な取組】

- 隣近所の声かけや、あいさつをみんなが進んでするよう呼びかけます。
- 大人が率先して小学生や中学生にあいさつしていくよう呼びかけます。
- 普段から隣近所の付き合いを深め、地域の防犯・防災意識を高めます。



「防災ささえあいカード」の活用を検討していきます



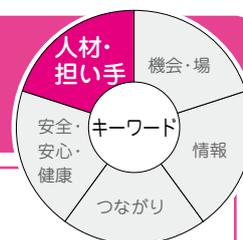
【現状の課題】

「防災ささえあいカード」が活用しきれていない

【具体的な取組】

- 自治連合会、民生委員児童委員協議会で連携して情報の活用方法を見直します。
- 長津田地区のすべての防災拠点で統一した運用ができるよう協議していきます。

世代を越えた交流をはかり、ボランティアを育成します



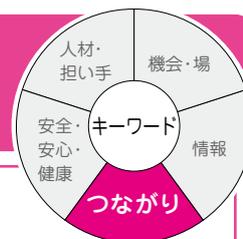
【現状の課題】

ボランティアが高齢化しているので、地域行事に若い人の力が必要

【具体的な取組】

- ボランティアをしたい中学生と、自治会がうまくつながるような仕組みをつくりまます。
- 学校と地域が今まで以上に連携して、地域行事を行っていきます。

認知症の人や家族が暮らしやすい地域づくりをすすめます



【現状の課題】

- 認知症の人が増え、本人も介護する家族も大変
- 地域でも認知症についての理解を深め、「ささえあう」ことが求められている

【具体的な取組】

- 認知症予防と認知症理解のための「出前講座」を区役所と協働で開催します。
- 講座内容に体験談を取り入れるなど、認知症についての理解を深めていきます。

みんなの力で福祉の街・長津田地区をもっともっと素敵な地区にいきましょう！！

1 区計画策定の経過

★みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会の開催

第2期となる区計画の策定にあたっては学識経験者や自治会、地区社協などの方々に構成される「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」を開催し、検討を行いました。

<平成21年度>

- 第2期計画策定の方針・組織体制、策定スケジュール等の検討
- 区民アンケート実施の検討、結果の分析
- 地区別計画策定に向けての地区支援チームや地区別計画策定委員会の運営・スケジュール等の検討
- 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組状況の報告
- 地域での各種取組状況に関する情報交換 など

<平成22年度>

- 第2期区計画の基本案、構成の検討
- 基本目標1～5、及び目標毎に設定する「目指す姿」の検討
- 地区別計画策定の進捗確認や意見交換
- 第2期計画の推進についての検討
- 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組状況の報告
- 地域での各種取組状況に関する情報交換 など

★基本目標の継承・「目指す姿」の表現

みどりのわ・ささえ愛プランは前述のとおり、地域の特色を活かした「地区別計画」と、緑区全体で取り組む「区計画」とで構成されます。日常生活に連動した課題などに対する地域の取組をまとめた「地区別計画」と、地域を超える課題や、近隣では対応しにくい課題、区全体を対象とした課題や地域の取組を支援する計画などをまとめた「区計画」とが、互いに連動することでより有効な計画となります。

第1期計画の振り返り評価を踏まえ、第1期計画での「基本目標」は、一つ一つの地域課題を解決しながら緑区が目指していく方向性を示したものであることから、今回の計画においても継承することとし、さらに下記の内容を加えることとしました。

- (1) 「基本目標1」で標榜している「つながり」を、第2期計画では、より具体的な実践にむすびつけていくため、「基本理念」に追加しました。
- (2) 「基本目標5」については、「地域を主体とした防災・防犯活動や心身ともに健康で快適な生活を送るための取組を進め、誰もが安全・安心に暮らせ、いつまでもいきいきと活動や外出ができる地域」を目指す姿とし、第1期計画のキーワード「安心・安全・健康」を今回の計画においては「安全・安心・健康」に再定義しました。
- (3) 第1期計画期間に行った推進委員会や地区別計画策定委員会での意見や、アンケート調査でのご意見などから導き出される、緑区の「目指す姿」を基本目標毎に表現しました。

第2期区計画の基本理念・基本目標・目指す姿

基本理念

『誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして』
～一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり～

基本目標 1

地域での「つながり」のあるまちづくり キーワード…つながり

目指す姿 身近な住民同士が積極的にあいさつや声かけを行ったり、地域の行事や活動に参加することにより、子どもから大人まで地域の誰もが顔見知りとなる関係づくりを進め、つながりを持った支えあえる地域を目指します。

基本目標 2

「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり キーワード…人材・担い手

目指す姿 ライフスタイルに合わせ、気軽に地域と関わることができる仕組みと、ボランティア活動が円滑に行えるネットワークづくりや人材育成を進め、身近で支えあえる地域を目指します。

基本目標 3

みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり キーワード…機会・場

目指す姿 多様な場を有効活用し、身近な地域でさまざまな人たちが気軽に集い、活動できる「機会」や「場づくり」を推進し、つながりあえる地域を目指します。

基本目標 4

必要な「情報」が入手しやすいまちづくり キーワード…情報

目指す姿 ニーズに応じた相談先や福祉保健に関するさまざまな情報を発信・周知するとともに、生活課題の解決に向けた情報共有を進め、誰もが手軽に必要な情報を得られ、活用できる地域を目指します。

基本目標 5

「安全・安心・健康」のまちづくり キーワード…安全・安心・健康

目指す姿 地域を主体とした防災・防犯活動や、心身共に健康で快適な生活を送るための取組を進め、誰もが安全・安心に暮らせ、いつまでもいきいきと活動や外出ができる地域を目指します。

【目指す姿】

身近な住民同士が積極的にあいさつや声かけを行ったり、地域の行事や活動に参加することにより、子どもから大人まで地域の誰もが顔見知りとなる関係づくりを進め、つながりを持った支えあえる地域を目指します。

【目指す姿を実現するためのキーワード】

世代間・団体間の交流促進／イベント等を通じた地域でのふれあい・交流／ご近所づきあいの底力／学校との連携・次世代の人材育成／地域で声かけ／顔の見える関係づくり／自治会を中心とした「つながり」

【各地区から寄せられた共通課題】

- 少子高齢化、核家族化が進んでいる。
- 近所づきあいが希薄化している。
- 高齢者が孤立化している現状がある(孤独死の発生など)。
- 地域活動の担い手が増えにくい。
- 地域活動に参加したくてもできない人がいる一方で、参加したくない、無関心な人もいる。
- 世代間交流の機会が少なくなっている。
- 新築マンション等の自治会加入率が低下している。
- 団体同士の横のつながりが薄い。
- 地域の学校や施設等との交流やつながりを持つことが必要である。

【第1期計画での取組】

あいさつ、声かけで地域の活動に参加する人たちの輪が広がってきた。／健康教室やふれあい広場(地域と子どものふれあう場)などを核として、地域のつながりが生まれているところもある／福祉まつりなどの行事を通じて、地域の団体同士のつながり・連携が生まれているところもある。／地域の行事などで学校と連携すると、地域の活性化に繋がると感じられた。

【第2期計画での具体的な取組】

地域	<ul style="list-style-type: none">●身近な住民同士がつながりを持つきっかけとして、積極的にあいさつや声かけを行います。●地域の行事や活動に積極的に参加することにより、誰もが顔見知りとなる関係づくりを進めます。●地域で活動している団体同士が交流することにより、お互いの活動を知り、交流の輪を広げていきます。
地域ケアプラザ・地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none">●積極的なあいさつを交わすなど地域住民とのコミュニケーションを図ることで、地域ケアプラザをより身近に感じてもらい、地域ケアプラザの役割についての理解を促します。●行事や広報等を活用して地域活動を積極的に周知し、活動のきっかけづくりや地域の団体・住民同士の交流を深め、地域における連携やつながりを支援します。●地域交流や世代間交流の機会となる事業を実施し、子どもから大人まで顔見知りとなるきっかけづくりを行います。
区社会福祉協議会	<p>『様々な分野の人たちのつながりのある仕組みづくり』を目的とした事業に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none">●地区別計画の推進を中心とした、つながりのある地域づくりを支援します。●地区社協を中心とした、小地域での課題解決の仕組みづくりを支援します。
区役所	<ul style="list-style-type: none">●多くの人が参加するイベントや事業を通して、子どもから大人まで交流の持てる機会を作り、顔見知りとなる関係づくりを支援していきます。●日頃の業務や事業を通して、地域でのつながりが広がるよう関係機関で連携して支援していきます。●福祉保健活動を行っている団体同士が、お互いの活動を知り、交流を持つことで、活動の広がりを持てるよう支援していきます。●日頃から住民同士があいさつや声かけができるよう、職員が率先して行っていきます。●地域の支えあいのネットワークを広げていくために、関係機関と連携し、各種連絡会を開催します。

【目指す姿】

ライフスタイルに合わせ、気軽に地域と関わることができる仕組みと、ボランティア活動が円滑に行えるネットワークづくりや人材育成を進め、身近で支えあえる地域を目指します。

【目指す姿を実現するためのキーワード】

気軽に参加できる「仕組み」づくり／いろいろな人が地域活動やボランティアに参加／活動をしっかり続けるための支援／新たなボランティアの発掘と育成／ボランティア団体間の横のつながりを大事に／地域の人々が地域を見守る

【各地区から寄せられた共通課題】

- 自分の趣味や特技を地域活動に役立てたいと考えているが、きっかけがない。
- ボランティアに関心があるが、活動できる場所や時間が限られているので、参加しにくい。
- 日常生活の「ちょっとしたこと」を一緒に考えたり、手伝いを頼める相手が見つかりにくい。
- ボランティアをしたい人・関心ある人と、担い手を求めている活動とが結びつきにくい。
- 生活を支えるボランティア活動(見守り訪問・送迎・配食など)は、新たな担い手が増えにくい。
- 団体の活動や情報がその団体内部に留まっていて、福祉保健活動の広がりにつなげていない。
- 福祉保健活動は、支える人と支えられる人という一方的な関係がイメージされやすく、固定された認識を持たれやすい。
- 若い人たちの地域活動への参加など、次の世代の人材確保・育成をどのように行うか悩んでいる。
- 自治会に入る人が少なくなっていて、地域活動が困難になってきている。

【第1期計画での取組】

地域ボランティア相談室(地区ボランティアセンター)を中心とした、身近な地域で気軽に相談できる環境と解決の仕組みづくりに取り組んだ。／地区ボランティアセンター・地域ケアプラザ・区社協の連携による活動への参加・仲介、相談調整の推進を図った。／地域ケアプラザや自治会館を活用した、集いや交流サロン、サークル活動など、住民同士で自主的に交流する場を活かす取組を開始した。／障がいのある人やその家族が講師となり、福祉教育の出前授業や勉強会の実施、施設と地域の合同避難訓練の開催など、福祉保健の啓発活動の推進に取り組んだ。／支援を必要とする方、支援が可能な方を把握、調整し、双方から役に立つ仕組みを作ろうとの声があった。

【第2期計画での具体的な取組】

地域

- 地域活動や行事等を通じて、福祉保健活動団体・関係機関とのつながりを広げるなどして、新たな人材の発掘や育成をすすめます。
- 自分の知識や経験を活かし、地域活動へ参加することにより、身近で支えあえる地域づくりをすすめます。
- 地域の障がい福祉に対する理解を深め、思いやりのある人が育つ地域づくりをすすめます。

地域ケアプラザ・地域包括支援センター

- 個人の趣味や特技が活かせるような活動の紹介やボランティア希望者のニーズに合わせた調整など、人材や担い手に関するコーディネートを行います。
- 地域ケアプラザへのボランティア登録を呼びかけるとともに、地域ケアプラザや自治会館等の地域の身近な施設を活用し、ボランティア活動につながる各種事業を実施します。
- 地域のボランティア活動グループ等と連携し、事業の共催やグループ活動の支援を行います。
- 地域の福祉保健活動団体との連携強化を図り、ボランティア育成につながる事業の開催やボランティア活動も含めた各種情報を広報します。
- 地域の学校などとの連携による学童等を対象としたボランティアのきっかけづくり(体験含む。)や育成に取り組みます。

区社会福祉協議会

- 『新たな人材の発掘と育成、その後の活動の拡がり』を目標とした事業に取り組みます。
- 地区社協単位でのボランティア相談窓口の開設・運営を支援します。
 - 中高生や大学生、40～60代のような次世代の人材を発掘、育成します。
 - 各種ボランティア講座を開催し、講座修了者を継続支援します。

区役所

- 地域活動の担い手を広げていくため、さまざまな講座を開催したり、普及啓発に取り組んでいきます。
- 将来の担い手となり得る若い世代に対して、他者を思いやる気持ちを育て、地域活動に関心を持つきっかけとなるような支援をしていきます。
- 活動団体同士の相互交流の機会を提供し、ネットワークが広がるよう支援します。また、地域活動について学ぶための講習会などを実施します。
- 担い手と受け手を結びつける仕組みが充実し、身近な地域で支えあえるよう支援していきます。
- 地域の課題について区民と行政が協働で取組、人材育成や地域活動が活性化するよう支援していきます。

【目指す姿】

多様な場を有効活用し、身近な地域でさまざまな人たちが気軽に集い、活動できる「機会」や「場づくり」を推進し、つながりあえる地域を目指します。

【目指す姿を実現するためのキーワード】

参加を促進し、支援する仕組みづくり／場の利用を促進する仕組みづくり／活動を知っていただくための工夫／子育て支援に向けた交流の場を確保／地域と施設・学校等とのつながりによる相互の「場」の活用／施設だけではなく、さまざまな場の活用

【各地区から寄せられた共通課題】

- 近くに集える「場」が少なく、活動場所の確保が難しい。
- 施設の利用ルールが、活動するグループの希望と合わないため、利用しにくい。
- いつも同じメンバーで集まっているだけなので、活動が広がらない。
- 世代間交流できる機会がほしいが、そういった機会が少ない。
- 他の活動グループと交流できる機会や場所が少ない。
- 地域活動の状況がわからないため、参加する機会を知ることができない。
- 施設は知っているが、自分たちの活動に利用できるかどうか、また、利用方法・予約方法等を知らないので、利用したことがない。
- 地域によっては坂道が多く、飲食店やスーパーが近くにないことなどから、高齢者の外出が難しい。
- 子育て中のお父さんお母さんが参加しやすい仕組みがあるといい。

【第1期計画での取組】

「親子の広場」ができて、子育てを中心とした地域の人たちとのつながりができてきた。／高齢者同士の会食の機会を定期的に設けていて、とても好評です。／地区社協や自治会などが中心となり、施設見学・お花見・紅葉狩りなどのイベントを定期的に行っているの、楽しみながら参加することができます。／高齢者の趣味を通じた自立した活動が行われ、仲間づくりに繋がっています。／地域ケアプラザと地区社協及び民生委員・児童委員協議会の共催事業が少しずつ増えてきました。／自治会館や地域ケアプラザだけでなく、老人ホームや高齢者住宅、コミュニティスペースを活用した地域活動も実施しています。

【第2期計画での具体的な取組】

地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域単位の行事やイベントの開催により、気軽に集うことができる「機会」や「場」を設けます。 ● 地域活動グループの積極的な活動により、さまざまな人たちの交流を促進し、「機会」や「場」の拡充へとつなげていきます。 ● 地域で活動している個人・団体同士が交流することにより、お互いの活動を知り、交流の輪を広げていきます。
地域ケアプラザ・地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ケアプラザを地域のグループ活動や地域の集いの場として活用できるよう、引き続き、支援を行います。 ● 地域ケアプラザを利用している活動団体間の交流を促進し、他の活動グループと交流できる機会や場所となる自主事業を実施します。 ● 地域ケアプラザ貸し部屋の情報を地域に周知するなど、利用促進に取り組みます。また、地域における活動の機会や場所についての相談や情報提供を行い、ニーズに応じた支援を行います。
区社会福祉協議会	<p>『各種団体の活動の拠点となる場の確保』を支援する事業に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き店舗など、活動拠点となりうる場所の情報を集約、発信します。 ● 分野別活動拠点を活用した事業の充実を図ります。 ● 地域で活躍する団体の拠点確保を支援する方策を検討します。
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設等を有効活用し、支援を必要とする人たちが、気軽に参加でき、身近な地域で安心して活動や相談のできる機会を提供していきます。 ● 様々な人たちが、地域活動等に興味を持つきっかけを作り、いつでも活動できるように「機会」や「場」に関する情報提供を進めていきます。 ● 拠点施設の機能を活かし、活動の「場」や「情報」の提供を進めるとともに、参加するためのきっかけづくりをするなど、各種活動を総合的に支援していきます。 ● 同じ分野で活動する人たちが集える「機会」や、世代・活動内容を問わない多様な交流の「機会」を設け、「つながり」を深める取組を進めます。

【目指す姿】

ニーズに応じた相談先や福祉保健に関するさまざまな情報を発信・周知するとともに、生活課題の解決に向けた情報共有を進め、誰もが手軽に必要な情報を得られ、活用できる地域を目指します。

【目指す姿を実現するためのキーワード】

必要な人に適切な情報を提供／知りたい情報を届ける工夫／地域の情報をわかりやすく／支援を必要とする人への理解／必要情報を把握し、適切に活用／イベントや活動をさまざまな手法でもっとPR／自治会加入の案内の工夫／他の地域の活動を知ろう

【各地区から寄せられた共通課題】

- 知りたいと思う情報を容易に入手することができていない。
- 地域ケアプラザ、地域包括支援センター、子育て支援拠点など相談機関が整備されてきたが、それらの機関の情報が十分に行き届いていない。
- 地域活動団体の活動に関する情報の周知が難しく、十分に行き届いていない。
- 個人情報保護の観点から、個人情報を入手しにくくなっている。
- 悪徳商法について、他の自治会の取組も情報交換できるといい。また、みんなが分かるようなPRをどのようにするのか。
- 自治会に加入していないと、地域で誰が困っているかなど把握が難しい。
- 防犯情報をもっと早く入手できるようにしたい。

【第1期計画での取組】

掲示板を広報手段として用い、有効であった。もっと活用できると思う。／地域での情報の伝達のルートがいくつかできてきたので、情報を共有できるようになってきた。／「防災ささえあいカード」が口コミで広がり“助けてほしい”と言うのをためらう人も声が挙げやすくなってきている。／いざという時に備えての自治会未加入世帯の高齢者の把握を行っている。／さまざまな活動を通じて、見守ることができるように、より良い方法をみんなで考えていく必要があると思います。／地域ケアプラザや地区社協の定期的な情報誌の発行により、地域のことがわかるようになってきた。

【第2期計画での具体的な取組】

地域	<ul style="list-style-type: none">● 地域での取組や活動の状況を、広報誌やチラシ、ホームページ等で発信します。● 身近な地域の情報が住民へ伝わるような工夫に取り組みます。● 災害時における身近な地域での助け合いを推進するため、つながりあう関係づくりと、要援護者の支援を行なう中で、防災の情報等が入手しやすいようにします。
地域ケアプラザ・地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none">● 地域ケアプラザ・地域包括支援センターや地域の福祉保健活動団体等の様々な情報が手軽に得られるよう、各種広報活動に取り組みます。● 地域のイベントや各種活動に参加し、地域ケアプラザや地域包括支援センターの事業内容のPR等に努めます。また、地域活動団体と連携を図り、地域情報の共有化を進めます。
区社会福祉協議会	<p>『福祉情報のネットワーク機能の強化』を目標とした事業に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 地域活動団体や施設、サービスなどについて、利用者の立場で分かりやすく情報を集約、発信します。● 移動手段に不安を感じている障がい者、高齢者等にむけて情報を集約、発信します。
区役所	<ul style="list-style-type: none">● 地区支援チームは地域力推進担当などの区役所内の各課と連携し、地域に関する情報を収集・整理・共有するとともに、地域に発信していきます。● 地域の福祉保健に関する情報の発信について、広報やホームページを充実させます。また、外国人市民に対する支援も行います。● 地域ケアプラザ等の相談機関に関する情報を集約し、区民にわかりやすく提供します。● 災害時における身近な助け合いを推進するとともに、要援護者に対する支援を行います。

【目指す姿】

地域を主体とした防災・防犯活動や、心身共に健康で快適な生活を送るための取組を進め、誰もが安全・安心に暮らせ、いつまでもいきいきと活動や外出ができる地域を目指します。

【目指す姿を実現するためのキーワード】

地域でのつながりが大切(見守り・触れあい・サポート・参加)／日頃の近所づきあいが大切／自治会や施設の連携による安全・安心への取組／「防災ささえあいカード」の活用／災害時に役立つ情報の収集／身近な場所で健康づくり／安全な通行

【各地区から寄せられた共通課題】

- 地域で行われる防犯・防災に関する取組に関心を持つ人が増えてきたように感じるが、参加したことのない人もいる。
- 交通量が多かったり、歩道がない区間があったりするので、通行が不安である。
- 坂道が多く気軽に外出することができない。
- 健康づくりに関心があるが、取り組むきっかけがない。
- 受動喫煙対策が徹底されていない。
- 何かあったときに周囲にSOSを出せない人がいると思う。(一人暮らしの青年・壮年層など)。
- 各自治会が防災ささえあいカードを活用して、要援護者を把握し、支援者(ボランティア)を増やしていく必要性を感じる。
- 防犯パトロールでは、もっと学校と連携していきたい。

【第1期計画での取組】

防災データマップの作成、配布(避難場所として協力してくれる施設も掲載)をしている。／登下校時の見守りパトロールを行うなど、防犯活動に地域ぐるみで取り組んでいる。／町内清掃活動などを通じて、地域への愛着を深めるとともに安心して通行できる空間づくりに取り組んでいる。／「防災ささえあいカード」の取組を進め、災害への備えを進めている。／「まちぐるみ健康づくり教室」を行い、地域の方と活動しながら、健康づくり活動を進めている。／地域が中心となってスポーツイベントを行い、健康意識を高めている。

【第2期計画での具体的な取組】

地域	<ul style="list-style-type: none">● 災害緊急時の仕組みづくりを地域全体で考えていきます。● 誰もが安心して暮らせるよう、住民同士が協力し合い、犯罪防止に関する活動に取り組みます。● 誰もが安心して安全に出かけられるよう、環境づくりや地域での支えあい活動に取り組みます。● 身近な地域でいつまでもいきいきと暮らせるよう、自主的な健康づくり活動を広げていきます。
地域ケアプラザ・地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none">● 地域や関係部署と連携を図りながら、地域防災や防犯に関する意識を高める取組を進めます。● 特別避難所等としての役割が十分に発揮できるよう、災害対策などに取り組みます。● 健康講座や健康づくり教室の開催や支援を行うとともに、地域活動団体と連携による定期的な健康チェック等を実施することにより、いきいきと活動できる地域づくりを目指します。● 介護予防講座や体力向上プログラム等の実践や、介護者や介護予防自主グループの支援を行い、地域での介護・介護予防の取組の充実を図ります。
区社会福祉協議会	<p>『地域・施設・要援護者の連携と理解』を目標とした事業に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 障がい者関係・高齢者関係の施設と、地域で開催する防災訓練を支援します。● 地域と施設の合同防災訓練や防災上のマップづくり等の取組が全地区で行われるよう支援します。● 地域で実施される高齢者の見守り活動等を支援します。
区役所	<ul style="list-style-type: none">● 個人や地域の防災力を高め、災害緊急時の仕組みづくりに地域で取り組めるよう支援していきます。● 防犯に対する関心を高め、地域での自主的な活動促進のための情報提供・活動支援に取り組んでいきます。● 誰もが安心して安全に出かけられるための環境づくりに取り組みます。● 身近な地域でできる健康づくり活動を、保健活動推進員や食生活等改善推進員、地域の活動団体等と連携し推進していきます。● 子どもから高齢者まで誰もが心身共に健康で快適な生活が送れるよう、健康づくりに関する取組を進めます。

★「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画の推進組織について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指して、各地区に「地区別計画推進委員会」を立ち上げます。委員には、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織していただきます。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決しながら、まずは地域活動の継続、そして新たな目標に向けた活動の発展や拡大、団体間の連携などが求められています。

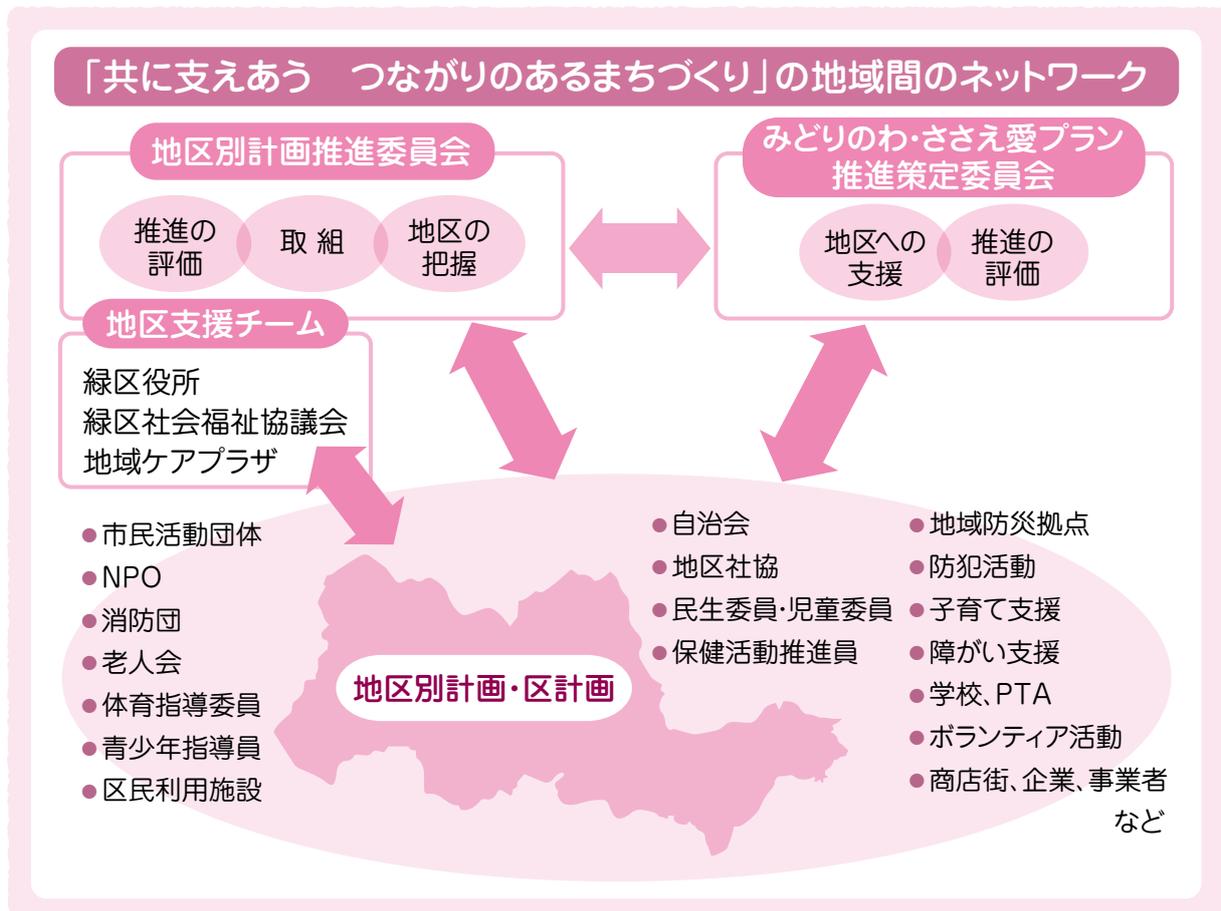
委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組の推進状況の把握や評価を行います。

(2) 地区支援チームについて

「地区支援チーム」は、地区別計画における地域の取組を、地域住民が主体となって推進していくよう、地区支援チーム会議を定期的で開催し、日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題を共有します。また、地区別計画推進委員会においては、地域情報や地区の課題に対する解決策や取組について検討し、地域に提案を行います。

★「区計画」の推進について

第1期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が区計画を含めた第2期計画での取組状況の把握や評価を行います。また、地区別計画の推進に対しても提言等の支援を行います。



第2期 緑区地域福祉保健計画
「みどりのわ・ささえ愛プラン」

編集・発行

横浜市緑区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町118
電話:045-930-2304 FAX:045-930-2355
mail…md-fukuhoplan@city.yokohama.jp
URL…<http://www.city.yokohama.lg.jp/midori/>

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0011 横浜市緑区中山町413-4
電話:045-931-2478 FAX:045-934-4355
mail…info@midori-shakyo.jp
URL…<http://www.midori-shakyo.jp/>



ミドリ
緑区マスコットキャラクター



第2期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」
横浜市緑区役所・横浜市緑区社会福祉協議会